

1. 幅広い視野を求めて
2. 卒業生からのメッセージ
3. 図書室利用統計
4. 第72回全国図書館大会について
5. JOISオンラインサービスについて
6. お知らせ

奈良高専 図書館だより

1987年6月 奈良工業高等専門学校図書室 発行

幅広い視野を求めて

図書館委員長 石 垣 昭

諸君の持っている昭和60年度以降の学生便覧には本校20周年の節目として制定された教育目標として「自立と友愛、幅広い視野、創造の意欲」の三つの目標が掲げられています。ここでは第二番目の「幅広い視野」についての図書館の役割を考えてみたいと思います。

図書館について、ランガナータンの5原則というのがあります。その第一原則には“本は利用するためにある”（Books are for use）とあります。図書館に備えてある本やいろいろな資料を利用しなければ、図書館はただ古本と机が並べてある冷暖房付の休憩所に過ぎないでしょう。

本校の図書館には書庫らしきものがありません。これは開架方式を守ってきたことによります。年々蔵書が増えてきているために、いずれは利用度のすくない図書を中心に書庫に収納するようなことを考えなければならぬ時期にきていますが、これまで開架方式を採用してきたことには、それなりの理由があるのです。開架方式は先の5原則の第3の原則“すべての本を読者に”（Every books, its reader）に基づいています。

開架方式の良さはいろいろな本を自分の手に取って見ることができる点にあります。諸君の年齢では、まだ、本に対する漠然とした知識しか持っていない人が多いと思います。図書館でいろいろな本を手にして漠然とした知的模索をすることが、知的芽生えとして諸君の年齢では非常に大切なことなのです。たとえば、自分の欲しい本がなくても、開架方式であれば関連する興味を持てる本に出くわすこともあります。また、全く関係のない本で、何気なく開いてみて、一行の文字に引きつけられ、新しい視野を広げてゆく、きっかけとなることもあります。

視野を広げながら、いろいろな価値観の存在を知ったとき、これまでの固定観念が崩れ、独創性が芽生えるのです。

もちろん、テレビや映画等の映像情報を通じて視野を広めることも大切な方法です。その直接的、強烈な印象に比べて、本の魅力は淡泊ですが、それがカバーしている情報の領域の広さと深さは映像情報とは比べものにならぬくらい広大なものです。もともと記号である文字で書かれた本の魅力を自分の

ものにするには自発的な努力が必要で時間がかかります。しかし、この魅力を君たちの年齢で味わったか、味わえなかったで、少しおおげさに言えば21世紀に向かっての君たちの創造のエネルギーが変わるかもしれません。

本校の学生諸君の中にもよく図書館の本を利用する本好きの人がいます。これらの人も生まれつき本が好きであったとは思えません。時間をかけ、沢山の本と接しているうちに次第に本当の本の魅力を発見し、読書を通じて自分の視野を広げてゆく楽しさを知ったためだと思います。しかし、本にじかに触れる機会がなければこのような魅力も発見できなかったでしょう。これを発見するには、まず、本に触れることです。ランガナータンの第2の原則にあるように“本はすべての人ために存在する”(Books are for all) のです。自分でくぐらねばならぬ狭い門ですが、本を通じての広大な視野を得る道はすべての人のために開かれており、図書館はそのためにあるのです。

卒業生からのメッセージ

高専生活と図書館

機械工学科 高橋 信哉

この五年間という長いような短いような高専生活の中で私が図書館で借りた本の本数はたぶん五十冊を超えてはいないだろう。また、その少ない本の大半は専門書であったように思う。我高専の図書館には他に多くの良い書物があるのを知っていたにもかかわらず、結局は読まずじまいであったことになる。今になって思えば、もっと自分で暇を作って読むべきであったと思うが、しかし、私の五年間の高専生活の中でクラブ活動と勉強とを両立させていくためにはこのような暇はほとんどなかったようにも思う。また、私の一日の生活パターン、つまり、授業終了後クラブ活動を行うというものでは、おちついて図書館へ行くことすらかなり苦しい状態であったとも思う。これは今になって思うことであるが図書館が使用できる時間は、平日が8時30分から17時まで、土曜日が8時30分から12時30分までであり、これは学校の授業時間帯とはほぼ一致している。したがって、授業に出席しているかぎりには、自習になるなどする以外は図書館を利用できる時間はたかがしれている。なおかつ、クラブ活動を行っているようでは利用時間など無いに等しいようなものである。学校では、いや世間一般では、学生は勉強の他にクラブ活動など何かに打ち込むことを奨励しているよう

であるが、先に記したような状態ではかなりの矛盾がある。

今の図書館のルールでは、利用者の一人としては不満が残るところが多かったように思います。自分の思った事、言いたい事ばかりを記してしまったようではありますが、あながちにこれ全てがまちがった考え方であるとは思えないので、非常に特殊な少数意見ではありますが、一度このようなことについて深く考えてみてほしいものであります。

また、私の友人の一人は、本の一回の貸出し数、期間の両方に対しても不満を持っていたことをここに付け加えておきたいと思います。

私の図書館の利用法

機械工学科 田 仲 健 一

「卒業を記念に図書館だよりを書いてくれない?」「へえ?」とあいまいな返事をしたのがこの文章を書くきっかけとなった。なんとも変なきっかけである。書きたくない弁解と、とれるかもしれないが、私はそんなに数多く図書館を利用した方ではないと思う。自分のクラスだけを見ても私以上に図書館に足を運んだ友人はたくさんいる。

なぜ選ばれたのかと問うと、先生の推薦と答えてもらったが、これは授業中に寝ていたのを根にもたれたかもしれないと思いつこの文章を書いている次第である。後輩の皆さんにも一つ忠告を差し上げます。

一応「私の図書館の利用法」と書いてあるので私なりに図書館をどのように使ってきたかについて書いてみることにする。

利用法その1 図書館はうたた寝の場所に利用した。これは私が低学年の時の最も多い利用法だった。午前中の授業が終って午後の授業へ移る昼休みのひととき、図書館へ行き陽当たりのよい机を見つけだしてその上にうたた寝をする。それも目の前にはまったくといっていいほどの分からない哲学の本を並べて……。 (その本を開けるとさらに効果的)。それはまったく快いものだった。周りからはアイツはすごい奴だなと思われるのも愉快であった。

利用法その2 図書館は逃避の場所に利用した。逃避といえば少しおおげさすぎるが、一種の逃げ場所と思ってくれればよい。これは何かにつけてレポート、ノート、製図などを無理やり借りられた私にとっての防衛策である。たまに断わると強引にも借りようとするので、その追求をのがれるために図書館に逃げこみ、行方を暗ますのであった。もちろん行き先はだれにも言わない。図書館へも探しにもくるがこんなときは奥の方に隠れ、本棚の死角に入るようにし、分からないようにした。意外とスリルがあって楽しかった。

利用法その3 あまり感心はできないが、図書館を遊び場所に利用した。どうしても自習が2、3時間も続くと何もすることがないこともある。そんな時にこの遊びをした。それは本による将棋倒しである。立てても倒れそうもない本(辞書、辞書の類がベスト)を10冊ほどとってきて並べ端の1冊を押す。バタバタという音をたてて倒れている本を見ている時の感じ、聞いている時の感じ、また、いつ怒られはしないかというスリルも加わって何ともいいがたいものだった。本でピラミットも作ったりとかもした。スママセン!

利用法その4 一応建前で図書館本来の利用法としての読書及び参考書による調べものなどにも利用した。しかしこれは利用法その1へとつながる可能性が高かった。その他には夏にはここだけが学生の出入りが自由で冷房がきくところだったので理由もなく来たものだ。

このように私なりの利用法を書いてきたが他にもまだ、いろいろとあると思います。また後輩の皆さんにはほとんど役に立たないと感じますがほんのわずかにでも参考になれば幸いです。最後に、考え方一つで上に示したようにも利用できますので皆さんも図書館へ足を運んで本の表紙だけでもいいんです。眺めて下さい。それだけでも絶対に損はないと確信します。できたら一冊でも読破してもらえるとありがたいのですが、ここまでは無理に言いません。学生時代に本を多く多く見て下さい。それだけでも自分の知識がつかますから。

追記 私のいつも座る場所は窓側に並んでいる机(一人用)の一番右側(道路側)です。

卒業にあたって

化学工学科 福山稔章

人生には数多くの出会いがあり、そして別れがある。その中で成人するまでの四分の一をここ奈良高専で過ごしてきた。「歳月人を待たず」と言われるように、五年というものは実に早いものであった。そして今、卒業を迎える。

卒業を前に今思うことは、この間に得た物は一体何であろうかということである。思い起こせば五年前、優雅な高専桜が私達新入生を迎えてくれた。希望に満ちたというよりは、殆ど不安でいっぱいであったが、三十九人の仲間と一生懸命頑張ってきた。入学してから卒業するまでに二十回の定期試験を受けなければならず、そのたびに朝まで勉強したことが思い出される。俗にいう一夜漬けである。(このことは常日ごろから勉強していれば何ら問題にはならなかったろうが。) 間際にならないとやらないのが私の悪い癖なのだが、これには身につまされる学生も多いはずであろう。試験勉強は早目に取り掛かった方が賢明である。そして、クラブでは陸上部に入り、成績としては華々しい活躍は出来なかったものの高専大会で一度入賞したことがあった。四位ではあったが自分自身満足であった。そして補欠であれ全国大会へ行き、他校の学生と知りあえた事や、駅伝で仲間と感動を分かちあえたことは非常に有意義な事であった。

私は長距離がメインであったが、よく人から「何がおもしろくて走るのか」と聞かれることがあった。確かにボールを使う種目でもなく、団体競技でもない。ただ黙々とゴールを目指し走るのである。しかし、ゴールインした時の充実感は何物にもかえられない喜びがある。走るということは孤独なことであるが、それゆえ己の限界に挑戦し目的を達成した時の喜びはひとしおである。「人生はマラソンのようだ。」とよく耳にするが、まさにその通りだと思う。多くの苦難を、また行く手に立ちはだかる壁を一つ一つ乗り越えて人は強くなっていくものだ。どんな事にしろ、途中で挫折してしまうと今までの苦労が無駄になる。最後までやり通して目的を果たすことが人間にとって一番大事なことではないか。辛いことや苦しいことに背を向けていては前には進まない。逆に、このようなことをするのを喜ばなければいけない。「苦を楽しめ」ということを日頃から自分に言い聞かせている。苦労したことは必ず成果として表われるものだ。クラブの他に印象に残るものは、やはり卒研であろう。夏休み、冬休みをも返上して、数十回と繰り返した徹夜は、高専時代最大の思い出である。諸兄諸姉方の偉大な研究に恥じめよう、全力で取り組んだが恐らく足元にも及ばないものであったかもしれない。しかし、新しい事の発見、真実を追求するということだけのすばらしさを研究は教えてくれた。一年間だけではあったが、この間に学び得たものは計り知れないものがあり、教訓として得たものは身に染みて忘れることができないだろう。

前にクラブのことを記したが、自分がスポーツにおいて上手くなりたければ、その道の最高の人、プロと言われる人を真似ることが上達のコツだと思う。勉強にしろ、遊びにしろ、そうであると思うが、真似てばかりだと進歩はない。如何に自分のものに習得し、オリジナリティーを見いだすかが肝心なのである。私は中学より高専時代において、一つのモットーを自分に与えてきた。それは「精神一到、万難突破」という言葉である。自分で考えたものではないが、ことわざに「精神一到何事か成らざらん」というのがあり、意として「精神を集中して努力すれば、どんな困難なことでも出来ないことはない。精神力の大切なことをいった語」とある。これを自分なりにアレンジしたわけである。そして、このモットーが前に記したような苦難を追求しろという考えの根本になっ

ているのだ。そして、卒業してからは「頂点を極める！」をモットーとし志していきたいと思う。

今、後輩諸氏に言いたいことは、卒業するまでの五年間に何か一つ、自分で満足のいく成果を残して欲しいということである。そして、一度しかない時代を悔いのないように生きて欲しいと思う。

最後に、五年間熱心に指導して下さった諸先生方、進路指導にあたり常に親身になって下さった教務係の皆さん、そしてお世話になった職員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

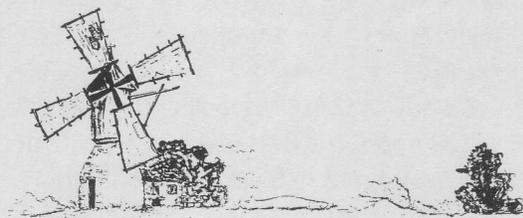
昭和六十二年三月

62年度 読書感想文コンクールについて

恒例の読書感想文コンクールを、図書館委員会と国語科の共催で行います。課題図書が決まり次第、カウンターに並べますので、手引きと一っしょによく見ておいて下さい。

また、課題図書として先生方から推薦されたりストも印刷物にして皆さんに見て頂くつもりです。

若い日に見つけた一冊の本が、終生の本となる……そんな素晴らしい本との巡り合いを期待しています。



(カット 2C 竹川弘子)

第72回全国図書館大会について

図書館だより22号でふれましたように、昨年8月、第52回国際図書館連盟（International Federation of Library Association and Institution. 略称IFLA）東京大会が開催されたため、例年秋に招集される第72回全国図書館大会（略称JLA）が、'87年3月に開催され、盛会裡に閉幕しました。

IFLAは、例えてみれば、世界の図書館の国連のような存在であり、隔年毎（出来れば奇数年）各国主要都市で開催されるIFLA大会はオリンピックのようでもあります。

従って始めて日本でこの国際大会が開催されたことは、日本図書館史上、特記すべき出来事といつてよいものです。

JLAは、この重要な会議に焦点をあて、第72回大会のテーマを「IFLA東京大会報告と今後の日本図書館の方向」としたのは、もっともな事です。

早くからこのような文化活動を活発に行ってきたヨーロッパ先進諸国に比べて、大きく立ち遅れていた日本の図書館活動は、戦後40年が経ち、最新の科学技術の導入や、経済的躍進の中でどのような活動を行っているか、又後進国からは、どのように期待され、それに応えているのかを問われている、と報告しています。

飛躍的経済成長がもたらした結果として、サービス面における科学技術・機器を大きく取り入れた状況の中で、先進諸国に比べて少教派、即ち、障害者や少数民族、外国人等に対するサービス面が手薄であると指摘され、精神面におけるサービスの重要性が指摘されています。

又、決定権を持ち、管理者としての資格を有する先進国司書と、日本における司書職との落差、社会的評価の低さがクローズアップされた事等、考えなければならない事が沢山ありました。

次に '87年JLA大会の中で、高等専門学校図書館として特記しておく事が二点あります。一つ目は、この大会から今まで短大図書館分科会で肩身狭く居候をしていた「高等専門学校図書館分科会」が始めて独立し、JLAの正式メンバーとして位置づけられるようになったこと。

二つ目は、高等専門学校制度が発足して以来、心ある高専や、図書館に働く私達の宿願だった「高等専門学校図書館協議会」の設立がこの分科会で可決され、スタートすること。この二点です。

さし当って、大阪府立高専教授・津田凜先生が会長におされ、活動を開始することが決まっています。

この設立に先立ち、近畿地区の図書館員、数人の賛同を得て、「高専図書館通信1号」を発刊しました。

歴史の古い、伝統ある図書館に少しでも追いつき、よいサービスを行いたい、という気持ちで始めたものです。

毎日、目に見えない雑用の中でこれを発刊するのは、87



ページのササやかなものでも大変ですが、続けたい、と私たちは念願しています。

大小様々な図書館の中で、私達の図書館は、規模、スペース、蔵書数、利用、活動等は小の部に属しています。時代の流れとして電算化に移行するための問題等も山積しています。

図書館活動を見れば、一国の文化の程度が分かる、といわれています。

このことは図書館で本を供給する人も、利用する人も日本の文化の文化にない手であることでは同一線上にあります。

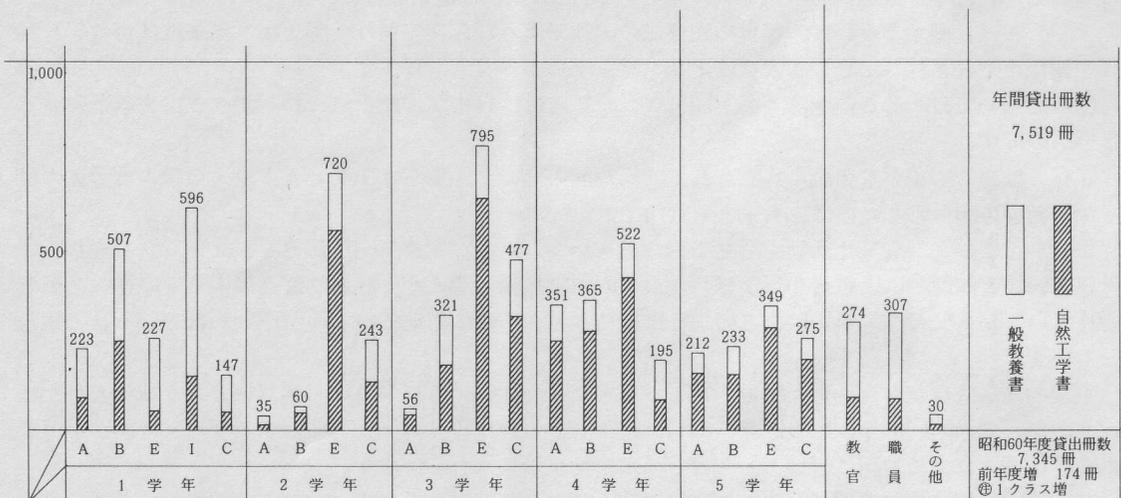
一諸に図書館活動を盛んにするように心がけましょう。

図書館と仲良くなって下さい。

'87. 5. 図書室 山口京子

昭和61年度 図書室利用統計

〔クラス別貸出冊数〕



〔蔵書冊数・分類別〕 昭和62年5月現在

種 別	総 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 学	工 学	産 業	芸 術 体 育	語 学	文 学	文 庫 書	合 計
和 書	1,902	1,902	4,364	2,485	10,213	14,050	213	2,634	2,656	7,392	4,169	52,006
洋 書	341	245	79	94	1,770	1,479	1	33	748	1,379		6,169
合 計	2,243	2,173	4,443	2,579	11,983	15,529	214	2,667	3,404	8,771	4,169	58,175

学生閲覧用雑誌として、従来から購入していました、思想、美術手帖、日本の美術、動物と自然、植物と自然、科学、数理科学、BASIC数学、機械と工具、PPM、高分子の合計11冊の雑誌を中止しました。

新しく美術関係雑誌として、「一枚の絵」を四月から購入することになりました。ご利用下さい。



(カット・2C 竹川弘子)

「JOIS オンラインサービス」をご存知ですか？

図書室では1980年からJICST（日本科学技術センター）のJOISオンライン検索サービスを行っています。情報検索のため、あちらの図書館、こちらの図書館をかけずり回ったのは昔の話です。

今は居ながらにして、全世界の情報を漏れなく、しかも短時間で集めることができます。公衆通信回線（つまり電話）を、JICSTのコンピュータに接続して、会話するシステムです。その結果は、ただちに、端末機に印字されます。又、回答件数が多い場合には、オフラインで出力、郵送してくれます。

新任の先生方は、是非一度お試し下さい。あなたの研究の重要な部分を助けてくれると思います。

JICSTファイルの出力例

#001-回答文献番号 ↓ UDC ↓ 分類コード
 CC= 628.51:614.71/.73:616-02, (KB030406)
 CN= DN,UNDEF ← 記事番号 (記事番号付番号のもの)
 TI= チハ*ケン ニ オクル コウカカ*クモツク*ヒカ*イトド*ケ カラ ミタヒカ*イシ*レイ ノ イキカ*クテキコウザツ ← 標題
 AU= オオイ (チハ*ケンコウカ*ケンキウシ*ヨ) ← 著者名 と 所属機関名
 JN= F395BA, CHIBA-KEN KOGAI KENKYUJO KENKYU HOKOKU
 ↑ 資料番号 (JICSTの内部コード) ↑ 資料名
 VN= VOL.2, PAGE.1-15, 74 ← 巻号, ページ と 発行年
 CI= (1) (A1) (JA) (JPN) (1,16, 8)
 ↑ 資料種類 ↑ 記事区分 ↑ 使用言語 ↑ 発行国 ↑ 写図、表、参考文献数
 KW= キシヨウシ*ヨウケン; ケンコウヒカ*イ; コウカカ*クモツク*; タイキオセン; チホウシ*チタイ; フウコウ
 ↑ キーワード
 #002
 CC= 628.51:614.71/.73:551.51U.53, (KB030705)
 CN= K7511U533 ← 記事番号 : 「科学技術文献速報」の記事番号に対応するもの
 TI= ヒカイ ノ NOXオセン ト カンキョウシ*ユンチ ノ コウザツ
 AU= キョウラ
 JN= F926AA, P P M; KOGAI TAISAKU TO GIJUTSU KAIHATSU
 VN= VOL.6, NO.8, PAGE.99-104, 75
 CI= (1) (B2) (JA) (JPN) (1, 2,)
 KW= カンキョウシ*ユン; ケンコウヒカ*イ; コウカカ*クモツク*; サンカチツリ; タイキオセン

オンライン料金

データベース名	料金		ファイル接続料金	オンライン 回答出力料金 (ヒットチャージ)	オフライン料金		
	公衆回線	特定回線			手配料金	回答出力料金	
						Aタイプ (抄録付)	Fタイプ (抄録無し)
JICST	210円/分	280円/分	—	500円/回	35円/件	17円/件	
JMEDICINE	210円/分	280円/分	—	500円/回	27円/件	17円/件	
JCLEARING	210円/分	280円/分	—	500円/回	17円/件	17円/件	
JTERM	210円/分	280円/分	—	—	—	—	
JCATALOG	210円/分	280円/分	—	—	—	—	
MEDLINE	210円/分	280円/分	—	500円/回	30円/件	20円/件	
MESH	210円/分	280円/分	—	—	—	—	
CASEARCH	315円/分	385円/分	33円/件	500円/回	—	58円/件	
CASNAME	315円/分	385円/分	—	—	—	—	
TOXLINE	476円/分	546円/分	—	500円/回	62円/件	44円/件	
BIOSIS	336円/分	406円/分	18円/件	500円/回	—	43円/件	
CAB	266円/分	336円/分	59円/件	500円/回	109円/件	91円/件	
COAL	210円/分	280円/分	—	500円/回	35円/件	17円/件	
CANCERLIT	210円/分	280円/分	—	500円/回	35円/件	17円/件	
NTIS	279円/分	349円/分	—	500円/回	35円/件	17円/件	
INSPEC	391円/分	461円/分	46円/件	500円/回	93円/件	75円/件	
FSTA	329円/分	399円/分	19円/件	500円/回	54円/件	36円/件	
INIS	210円/分	280円/分	—	500円/回	35円/件	17円/件	
研修ファイル	50円/分	50円/分	—	—	—	—	

〔お知らせ〕

1987年度図書館委員のメンバーが下のようになりましました。昼食時には、カウンターの傍や、事務室で待機して下さるので、学生諸君は、読書指導を受けて下さい。

「何を読むか、どう読むか」を、先生方や、先輩に問うことがきっかけで、1冊の本との素晴らしい出会いが生まれることもあるでしょう！

図書館委員会（教官）

学 科	図書部会	視聴覚部会	紀要部会
一 般	○細 井	田 中	細 井
機 械	福 嵩	○岩 井	岩 井
電 気	山 内	井 口	山 内
情 報	上 田		上 田
化 工	◎石 垣	梅 原	○梅 原

◎ 委員長 ○ 部会長

学生会図書委員

学科	MA	MB	E	I	C
1	楠本 智志	石原 邦治	上南 雅裕	木下あけみ	中岡 貴文
2	逸崎 博紀	村上 耕平 森沢 成晃	茶木 修一	若林 進	中井 崇
3	鶴田 敏和	北井 文博	横井 正俊		藤中 督也
4	◎都司剛清	○加藤雅男	大塚 左洋		石井 秀和
5	光岡 徹典	国枝 良明	松嶋 潤		磯島 喜生

◎ 委員長 ○副委員長

学生図書委員の2 I・若林君が、図書館に対する意見を届けてくれました。以下に掲載します。

〔図書館に対する僕の意見〕

私は図書館に少し不満があります。その1つ目は、おいてある本の量や種類が少ないように思えることです。私はある解説書を読みたいと思っているのですが、長い期間貸し出しされたままにな

っています。私はその本があるのを知っているので予約することができますが、知らない人にとってはないのと同じことです。

2つ目は、新しい本が入るのが遅いことです。新しい本がでて、入ってくるのに3カ月かかったり、雑誌が、発売日から二週間ぐらいしなくて入ってこないことがあったり、こんなに遅いのも理由あってのことでしょうがもう少し早くならないものでしょうか。

少しも建設的な意見がありませんが、私の図書館に対する意見はこんなところです。

〔係から〕 もっともな意見だと思います。しかし、少々説明のいるところもあります。

1つめ、本の量や種類が少ない……本校の図書館では、購入する殆んどの本は、教官からの推薦によるものですが、種類が少ないという意見は、今まであまり聞かれませんでした。予算の関係もありますが、できるだけ、学生諸君の要望に応えるよう努力してみます。そのためにも学生図書委員会の活躍を期待します。

2つめ、新しい本が入るのが遅い……これは反省します。しかし例えば、ベストセラーを入れるにしても、一か月に1回しかない委員会の承任を経てからとなると、なかなかスムーズにはいきません。又、入っても、支払いの手続き、コンピュータ入力などで、時間がかかり過ぎていることも事実です。できるだけ、スピード・アップするよう、努力します。

雑誌の件ですが、これは、書店が持ってきてくると、すぐ記帳し、配架していますから、大巾に遅れることはないと思います。ただ、少数の心ない学生が、最新号雑誌を、借り出してなかなか返さないということもあります。

その他、図書館に対する意見があれば、どしどしお寄せ下さい。

〔編集後記〕 にわかには夏がやってきました。図書室へ入るやいなやの一声が「あつー！」では、とても読書を楽しむどころではありませんね。

魅力のある蔵書、ゆったりした快適な空間を提供できる様、今、図書館委員会の先生方は、心を砕いて下さっています。

